

## 箱守仙一郎賞の受賞者リスト

	<u>奨励賞</u>	<u>優秀論文賞</u>
2017 年	山本勇人（弘前大） 郷慎司（東北医科薬科大）	周穎（東北医科薬科大）
2018 年	稲森啓一郎（東北医科薬科大）	目黒康洋（東北大） 村上友太（福島県立医大）
2019 年	伊左治知弥（東北医科薬科大）	佐野加苗（群馬大） 二瓶渉（東北医科薬科大）
2020 年	狩野裕考（東北医科薬科大）	段程偉（東北医科薬科大）
2021 年	菅原栄紀（東北医科薬科大）	梁彩霞（東北医科薬科大）
2022 年	米山徹（弘前大）	飛澤悠葵（弘前大） 宋万里（東北医科薬科大）
2023 年	コロナ禍の影響により応募者が少ないため、審査を行わなかった。	
2024 年	該当者なし	長井健一郎（福島県立医大） 徐 興（東北医科薬科大） 孫 钰涵（東北医科薬科大） 小堀由璃（弘前大）
2025 年	尾形慎（福島大学）	王 丹（東北医科薬科大） 呉 天貴（東北医科薬科大） 王 正光（東北大）

参考：箱守仙一郎賞の記事（福島大 尾形慎先生）2025.12.13

## 福島大の尾形慎教授に箱守仙一郎賞奨励賞 新粒子の開発論文が評価 最後のチャンスで栄誉射止める

12/13(土) 19:15 配信



 福島民報



受賞の重みをかみしめる尾形教授

福島県の福島大食農学類の尾形慎教授（45）＝糖質化学、糖鎖工学＝が、糖脂質研究の権威の名前を冠した箱守仙一郎賞奨励賞を受けた。45歳までが選ばれる賞で、最後のチャンスで栄誉を射止めた。福島大からの受賞は初めて。

箱守仙一郎賞は東北医科薬科大分子生体膜研究所が授与する。国内の糖鎖化学研究を発展させようと、東北地方、新潟、群馬両県の若手研究者を顕彰している。45歳以下を対象とした奨励賞、学生らの優秀論文賞を設けている。

新たな粒子「ナノハイドロゲル粒子」の開発成果をまとめた論文が評価された。これまでガラスや金を用いていたのを、木質のセルロースなど天然素材に置き換えて安価に抑えた。カニの殻、牛乳も活用している。精密に構造を整え、タンパク質などを吸着する性能が高まっているという。粒子は病原性ウイルスの捕捉などにも活用できる。基礎研究のさらなる推進が期待され、県外の研究機関から引き合いがある。

賞の名前となった箱守氏はがん細胞の糖鎖不全を研究するなど功績を残した。2020（令和2）年11月に91歳で死去した。尾形教授は「尊敬する箱守先生の賞を受けられたことは大変光栄。しっかりと研究に注力せねばと責任を感じている」と盾の重みをかみしめた。